

太宰府巡り

大宰府政庁跡（国指定特別史跡）

①大宰府の誕生

663年、天智天皇2年百済救援の日本軍は白村江で失敗したため、敵の侵入に備えて水城・大野城・基肄城を築いて、それまで博多湾にあった那津官家をこの地に移しました。これにより「太宰府」が誕生しました。

②太宰府政庁跡（都府楼跡）

大宰府政庁という大きな役所は、多くの礎石の上に建っていました。昭和43年からはじめられた発掘調査によってその姿が分かってきました。大宰府政庁跡は、一般に「都府楼跡」の名で呼ばれています。なぜなら、菅原道真が大宰府の配所で詠んだ詩の一節「都府楼はわずかに瓦の色を見、観音寺はただ鐘の声をきく」より、都府楼の名が有名になり、使い慣らされてきたからです。

観世音寺（国指定史跡）

①観世音寺の成り立ち

観世音寺は、天智天皇が母斉明天皇の冥福を祈るために創建されたもので、完成したのは80年後の聖武天皇天平18年（746年）です。鐘楼には日本最古といわれる国宝の梵鐘があります。また、宝蔵には、平安・鎌倉時代の巨大な仏像が収められています。

②南大門と築地塀

境内の南側に、南大門の礎石が数個残っています。南大門から北門にかけて、寺の周囲には築地塀を巡らせていました。「延喜五年観世音寺資財帳」には築地塀の長さ南北長69丈4尺（約210m）、東西長61丈4尺（約186m）とあります。